高松市埋蔵文化財調査報告　第90集

衣料品販売店舗建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

多肥宮尻遺跡（衣料品販売店舗）

２００６年1月

高松市教育委員会
株式会社しまむら

例　言

1．本報告書は，株式会社しまむらが計画する衣料品販売店舗建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書で，高松市多肥上町に所在する多肥宮尻遺跡（たひみやじりいせき）の報告を収録した。
2．発掘調査地ならびに調査期間は次のとおりである。
　調 査 地：高松市多肥上町 1433 － 1
　発掘調査：平成 17 年 11 月 21 日～平成 17 年 11 月 25 日
　整理作業：平成 17 年 11 月 22 日～平成 18 年 1 月 31 日
3．発掘調査及び整理作業は高松市教育委員会が担当し，その費用は株式会社しまむらが全額負担した。
4．発掘調査は高松市教育委員会文化部文化振興課文化財専門員大嶋和則が担当した。
5．本報告書は執筆から編集まで大嶋が行った。
6．発掘調査から整理作業，報告書執筆を実施するにあたって，下記の関係機関から御教示・御協力を得た。記して厚く謝意を表すものである。（五十音順，敬称略）
　香川県教育委員会，(有)青木建築設計事務所
7．挿図として，国土地理院発行 1/25,000 地形図「高松南部」を一部改変して使用した。
8．本報告の高度値は海抜高を表し，方位は磁北を示す。
9．本書で用いる遺構の略号は次のとおりである。
　SB：掘立柱建物跡　SD：溝　SK：土坑　SP：柱穴
10．発掘調査で得られたすべての資料は高松市教育委員会で保管している。

目　次

第１章　調査の経緯と経過
　第１節　調査の経緯…… 2
　第２節　発掘調査及び整理作業の経過…… 4
第２章　地理的・歴史的環境
　第１節　地理的環境…… 5
　第２節　歴史的環境…… 5
第３章　調査の成果
　第１節　調査地の概要と基本層序…… 7
　第２節　遺構・遺物…… 8
第４章　まとめ…… 10
写真図版…… 14

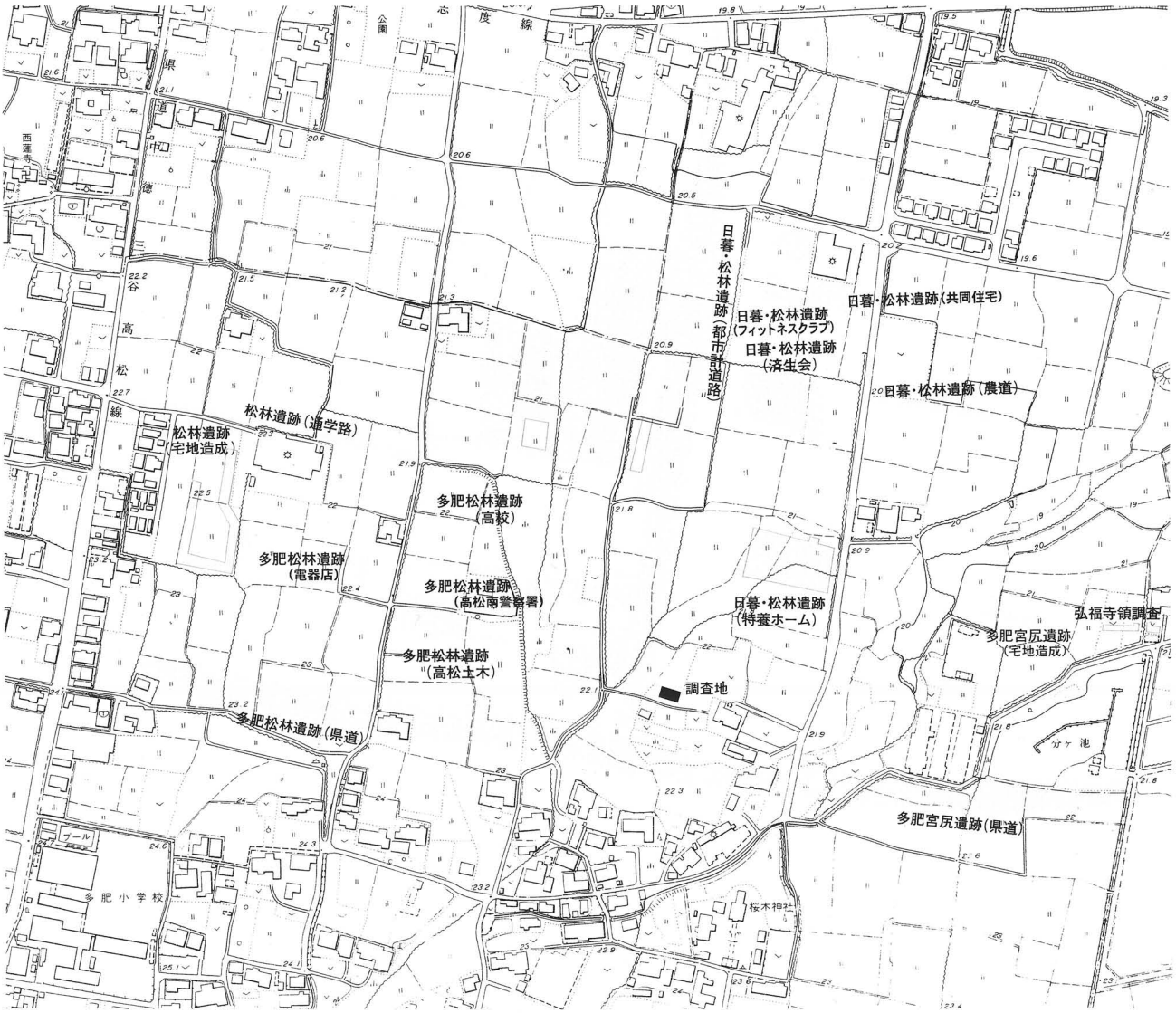
報告書抄録

第１章　調査の経緯と経過

第１節　調査の経緯

株式会社しまむらが計画する衣料品販売店舗建設工事に関し，平成17年５月に予定地内における埋蔵文化財包蔵地の有無について照会があった。高松市教育委員会では工事予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である日暮・松林遺跡及び多肥宮尻遺跡に隣接しており，当該地まで包蔵地が広がっている可能性が考えられたため，株式会社しまむらに対し，「現状では周知の埋蔵文化財包蔵地ではないが，周知の埋蔵文化財包蔵地に隣接していることから，遺跡が存在する可能性が極めて高く，工

第１図　調査地位置図（S=1/25,000）

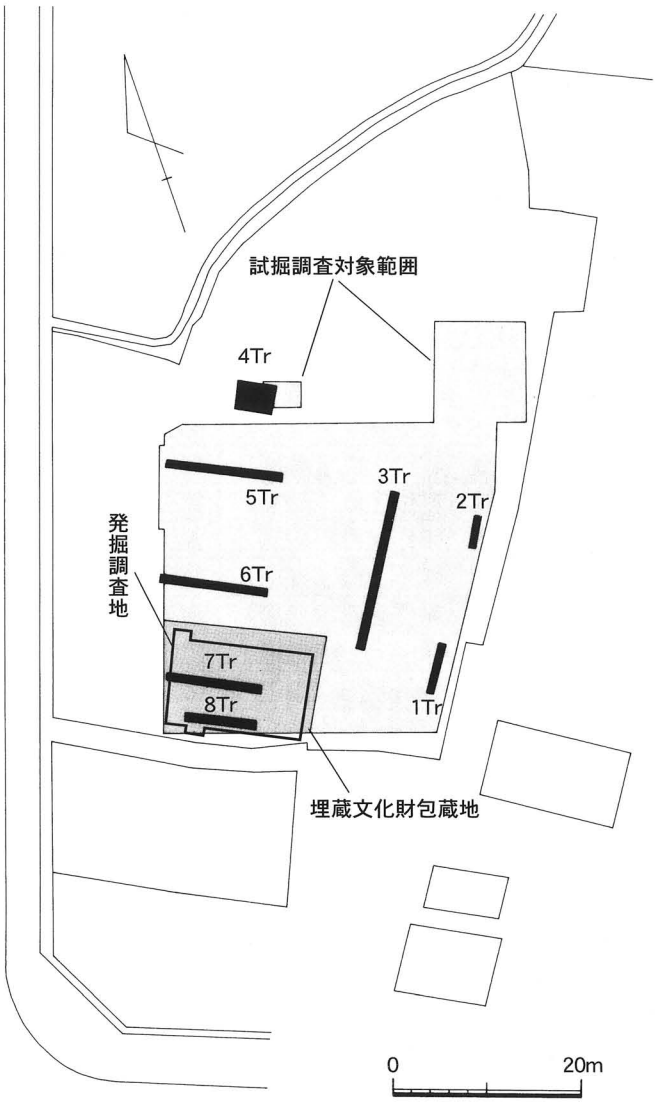


第２図　調査地及び周辺発掘調査地位置図（S=1/5,000）

事着手後に遺跡が発見された場合は工事の進捗に多大な影響を及ぼす可能性もあるため，工事着手前に確認調査を実施することが望ましい。」と説明を行い，任意協力をお願いした。

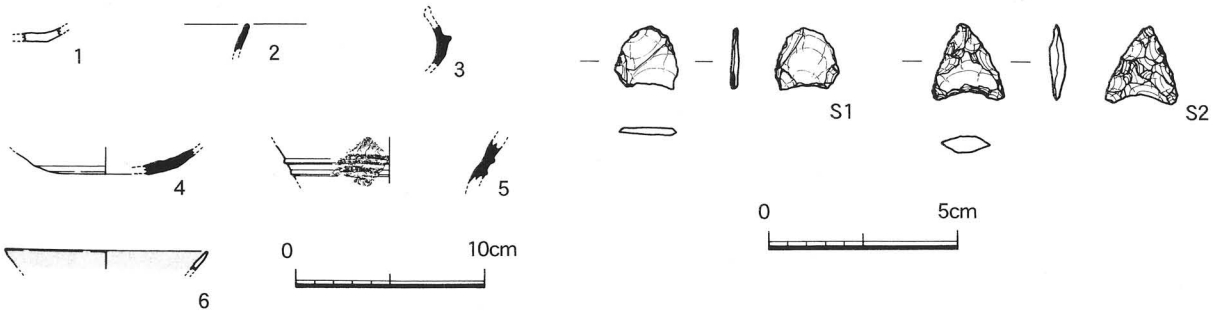
その後，5月30日に株式会社しまむらから高松市教育委員会に対し，確認調査の依頼があった。協議の結果，工事予定地のうち工事により地下遺構に影響の恐れがある建物建設部分約1,075㎡のみを試掘対象地とし，6月8日に試掘調査を実施した。試掘調査では8箇所のトレンチ調査を実施した。第1トレンチではピット1基を検出し，弥生土器，土師器，須恵器の小片が出土した。第2トレンチから第6トレンチでは，耕作土直下礫層となっており，遺構・遺物とも検出されなかった。第7・8トレンチでは溝とピットが数基認められ，周辺で遺物が表採できた。

以上の調査結果から，第7・8トレンチ周辺の約180㎡を埋蔵文化財包蔵地として取り扱い，その他の地区については保護措置の必要がないと判断した。



第3図　試掘及び発掘調査地位置図（S=1/800）

試掘調査出土遺物及び表採遺物については第4図に図示した。1は土師質土器皿，2～4は須恵器坏，5は須恵器壺，6は龍泉窯系青磁皿，S1・2は石鏃である。



第4図　試掘調査出土遺物及び表採遺物実測図（土器：S=1/4, 石器 S=1/2）

高松市教育委員会は，香川県教育委員会に対し確認調査結果を報告するとともに，9月8日に株式会社しまむらから提出された埋蔵文化財発掘の届出（文化財保護法第93条第1項）を進達したところ，香川県教育委員会から事前に発掘調査を実施する旨の回答を得た。これを受け，株式会社しまむらと協議を行った結果，工事着手前に発掘調査を行うことで合意し，10月31日に埋蔵文化財調査協定書を締結した。高松市教育委員会は発掘調査・整理作業の実務を行い，その費用負担および契約・支払事務については株式会社しまむらが行うこととした。

第1表 試掘調査トレンチ一覧表

	検出遺構	出土遺物	主な時代	取り扱い
第1トレンチ	ピット1基	弥生土器，須恵器，土師器	弥生・古墳	埋蔵文化財包蔵地外
第2トレンチ	無（耕作土直下礫層）	無	無	
第3トレンチ	無（耕作土直下礫層）	無	無	
第4トレンチ	無（耕作土直下礫層）	無	無	
第5トレンチ	無（耕作土直下礫層）	無	無	
第6トレンチ	無（耕作土直下礫層）	無	無	
第7トレンチ	溝1条，ピット4基	無（表採遺物あり）	弥生	埋蔵文化財包蔵地
第8トレンチ	溝1条，ピット3基	無（表採遺物あり）	弥生	

第2節　発掘調査及び整理作業の経過

発掘調査については，平成17年11月21日に開始し，11月25日に終了した。埋蔵文化財包蔵地は約180㎡であるが，現道及び現有水路の保護のため発掘調査面積は120㎡とした。整理作業は11月22日より開始し，11月30日に終了した。その後，平成18年1月31日まで報告書の編集作業を行った。以下に工程表を掲載する。

第2表 発掘調査・整理作業工程表

作業内容		11/21	11/22	11/24	11/25	11/26	11/28	11/29	11/30	12/1～
発掘	機械掘削									
	遺構掘削									
	図 化									
整理	洗 浄									
	実 測									
	トレース									
	執筆・編集									

第２章　地理的・歴史的環境

第１節　地理的環境

高松市は香川県の中央やや東寄りに位置し，市域の大部分は讃岐平野の一部を形成する高松平野が広がっている。南部に讃岐山脈の北縁がかかり，東部に屋島，立石山塊，南西部に石清尾山，浄願寺山，東部に青峰，堂山の山系が連なる。いずれも讃岐山脈の基盤である洪積台地と同じ地層からなるメサ，あるいはビュート型の溶岩台地で，20 ～ 300m の低い山地である。北方はひらけ，瀬戸内海に面し，備讃瀬戸を挟んで岡山県と対峙する。

高松平野は，讃岐山脈より流れ出た諸河川が運んだ土砂によって形成された沖積平野である。高松平野には，西から本津川，香東川，御坊川，詰田川，春日川，新川といった河川が北流しているが，なかでも香東川が平野の形成に最も大きな影響を及ぼしており，現存の春日川以西が香東川による沖積平野といわれている。現在，石清尾山塊の西側を直線状に北流する香東川は 17 世紀初めの河川改修によるもので，それ以前には現在の香川町大野付近から東へ分岐した後，石清尾山塊の南側から回り込んで，平野中央部を東北流するもう一本の主流路が存在していた。この旧流路は，現在では水田地帯及び市街地の地下に埋没してしまっているが，空中写真等から，林から木太地区にかけての分ヶ池，下池，長池，大池を結ぶ流路等数本の旧河道が知られており，発掘調査でもその痕跡が確認されている。なお，17 世紀の廃川直前の流路は，御坊川として今でもその名残りをとどめている。

高松平野を流れる諸河川は，南の讃岐山脈から平野への流入口で穏やかな傾斜を持つ扇状地形の沖積平野を形成し，農耕に適した地味豊かな土壌をもたらしたが，諸河川の中流域は伏流し，表層は涸れ川になることが多く，早くからため池を造築して水不足を解消してきた。これらのため池は，年間 1,000mm 前後と降水量の乏しい讃岐平野において農業用水確保のために不可欠なものである。また，今回の調査地である多肥地区周辺は，ため池に加えて出水（ですい）と呼ばれる自噴地下水脈の利用が盛んで，両者を併用した特徴的な配水網と厳格な水利慣行を伝えてきた。調査地周辺では，栗木出水，平井出水，鈴木出水等が見られる。しかし，昭和 50 年の香川用水の通水によって，一帯は三郎池の受益範囲に取り込まれ，農業用水の確保の不安が払拭された反面，地元水源を核とした水利慣行が急速に消滅するとともに，ため池や出水の水源自体もその役割を失いつつある。

第２節　歴史的環境

今回の調査地周辺においては，香川県立桜井高等学校や都市計画道路の建設等に伴う発掘調査が行われ，面的に遺跡の広がりや内容が判明している地域である。高松平野の歴史的環境は他の報告書に譲ることとし，ここでは周辺の調査について述べる。

旧石器・縄文時代の遺跡は，今回の調査地周辺では知られていない。松林遺跡や多肥松林遺跡の旧河道中からわずかに縄文時代晩期の遺物が出土している程度である。当該期の遺跡は高松平野全体でもほとんど知られておらず，不明な点が多い。

弥生時代前期になると，多肥松林遺跡で溝が検出されているほか，松林遺跡では集石遺構が見られる。中期中葉になると，香川県立桜井高等学校の中心部を南から北へ流れる自然河道が埋没を始めている。この流路から土器とともに，鳥形木製品，木製農具等が出土している。流路の両岸には掘立柱建物や竪穴住居が営まれており，特に流路東側の集落域は日暮・松林遺跡まで広がっている。この時期には多肥松林遺跡の北西部において洪水砂層，松林遺跡において地震の液状化現象である噴礫が認められ，自然災害があっ

たことを物語っている。中期後半～後期前半には遺構・遺物ともほとんど見られない。後期後半には日暮・松林遺跡において竪穴住居が多数検出されている。

弥生後期中葉以降には，幅５m程度の灌漑水路が多数掘削されており，古墳時代前期で埋没するものもあるが，古墳時代後期までの遺物を含む溝も存在する。また，日暮・松林遺跡や多肥宮尻遺跡においては古墳時代中期末～後期前半の土器や木製品を包含する自然河道が検出されている。一方，古墳時代の集落域や古墳については不明である。

平安時代には周辺の自然河道の埋没がほぼ完了しており，多肥松林遺跡において掘立柱建物や溝が掘削されており，溝からは斎串が多量に出土している。

中・近世においては条里地割の溝や掘立柱建物跡が検出されている。特に松林遺跡では香川郡の一条と二条の条界溝が検出されている。また，日暮・松林遺跡においては多量の瓦器埦が出土している。

第３表 周辺の調査履歴（～ 2005.11.30）

遺跡名	調査期間	面積	調査機関	文献
松林遺跡（通学路）	1995.5.19～1995.11.8	1,000 ㎡	高松市教育委員会	1
松林遺跡（宅地造成）	2004.4.1～2004.4.12	800 ㎡	高松市教育委員会	2
多肥松林遺跡（高校）	1993.4.26～1994.9.6	17,600 ㎡	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	3
多肥松林遺跡（高松土木）	1994.10.1～1995.3.31	5,900 ㎡	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	4
多肥松林遺跡（都市計画道路）	1997.4.1～1997.12.31	7,000 ㎡	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	5
多肥松林遺跡（高松南署）	2003.12.1～2004.3.31	2,000 ㎡	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	6
多肥松林遺跡（電器店）	2005.12.5～2005.12.16	300 ㎡	高松市教育委員会	7
日暮・松林遺跡（都市計画道路）	1993.11.15～1995.9.29	11,600 ㎡	高松市教育委員会	8
日暮・松林遺跡（済生会）	2002.5.12～2002.7.31	2,200 ㎡	高松市教育委員会	9
日暮・松林遺跡（農道）	2004.5.12	70 ㎡	高松市教育委員会	10
日暮・松林遺跡（済生会特養ホーム）	2004.6.23～2004.8.27	1,600 ㎡	高松市教育委員会	11
日暮・松林遺跡（フィットネスクラブ）	2004.12.1～2005.1.7	800 ㎡	高松市教育委員会	12
日暮・松林遺跡（共同住宅）	2004.12.11～2004.12.13	124 ㎡	高松市教育委員会	13
多肥宮尻遺跡（都市計画道路）	1997.4.1～1999.9.30	12,245 ㎡	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	14～16
多肥宮尻遺跡（宅地造成）	2004.7.5～2004.7.16	205 ㎡	高松市教育委員会	17
多肥宮尻遺跡（衣料品販売店舗）	2005.11.14～2005.11.18	180 ㎡	高松市教育委員会	本書

既存報告書（報告書が刊行されているものについては報告書のみを記載した）

松林遺跡

1．大嶋和則 1996『香川県立高松桜井高校周辺通学路整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 松林遺跡』高松市教育委員会

2．大嶋和則 2004『宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査 松林遺跡（第２次調査）』高松市教育委員会

多肥松林遺跡

3．山下平重 1999『高校新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第１冊 多肥松林遺跡』（財）香川県埋蔵文化財調査センター

4．北山健一郎 1995『高松土木事務所新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概報 多肥松林遺跡』香川県教育委員会

5．西村尋文 1998「多肥松林遺跡」『県道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報 平成９年度』（財）香川県埋蔵文化財調査センター

6．宮崎哲治 2005「高松南警察署移転整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 多肥松林遺跡」『香川県埋蔵文化財センター年報 平成15年度』香川県埋蔵文化財センター

7．大嶋和則 2006『電器店建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 多肥松林遺跡』高松市教育委員会（近刊）

日暮・松林遺跡

8．中西克也 1997『都市計画道路福岡多肥上町線建設に伴う埋蔵文化財調査報告書 日暮・松林遺跡』高松市教育委員会

9．大嶋和則 2003『香川県済生会病院移転新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 日暮・松林遺跡（済生会）』高松市教育委員会

10．大嶋和則 2005「日暮・松林遺跡（農道）」『高松市内遺跡発掘調査概報 －平成15年度国庫補助事業－』高松市教育委員会

11．大嶋和則 2005『特別養護老人ホーム（なでしこ香川）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 日暮・松林遺跡（済生会特養ホーム）』高松市教育委員会

12．小川賢 2005『フィットネスクラブ建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 日暮・松林遺跡（フィットネスクラブ）』高松市教育委員会

13．大嶋和則 2005「日暮・松林遺跡（共同住宅）」『高松市内遺跡発掘調査概報 －平成15年度国庫補助事業－』高松市教育委員会

多肥宮尻遺跡

14．松本和彦ほか 1998「多肥宮尻遺跡」『県道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報 平成９年度』（財）香川県埋蔵文化財調査センター

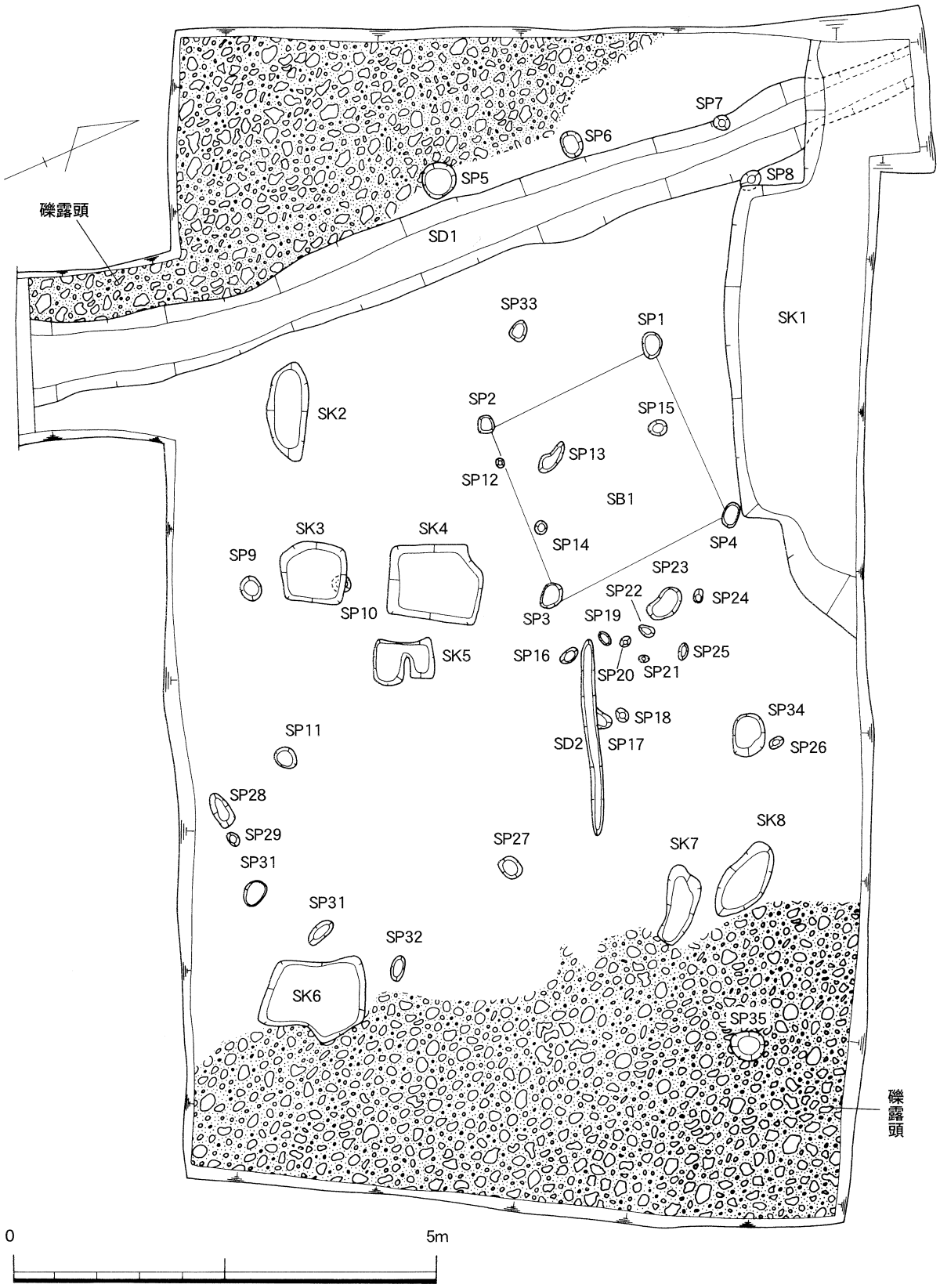
15．植松邦浩ほか 1999「多肥宮尻遺跡」『県道関係埋蔵文化財発掘調査概報 平成10年度』（財）香川県埋蔵文化財調査センター

16．小野秀幸ほか 2000「多肥宮尻遺跡」『県道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報 平成11年度』（財）香川県埋蔵文化財調査センター

17．小川賢ほか 2004『宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 多肥宮尻遺跡』高松市教育委員会

第３章　調査の成果

第１節　調査地の概要と基本層序



第５図　調査区平面図（S=1/70）

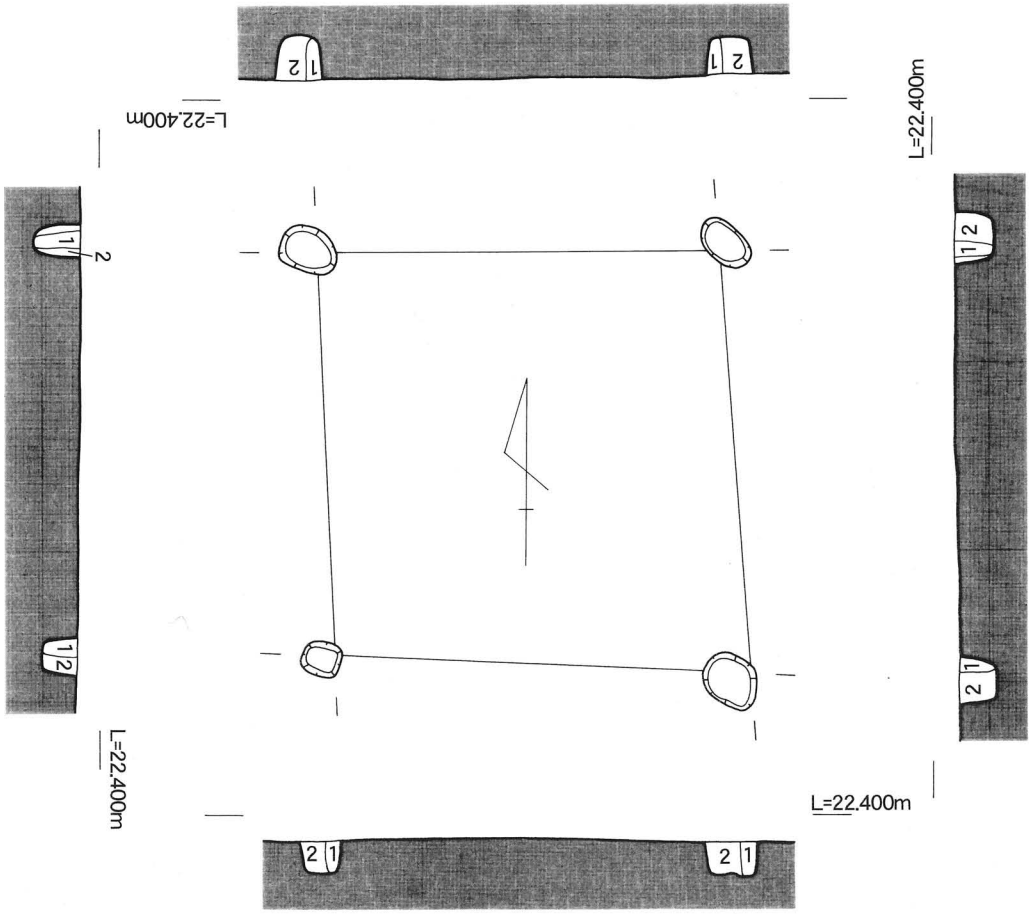
これまでの周辺部の発掘調査により，調査地周辺は，香東川の旧河道の主流路に挟まれた微高地上に位置することが判明している。特に調査地の東側は丘陵状を呈し，周辺の水田からの比高差約 2m を測る。調査地の現地盤は標高 22.5m を測る。基本層序は，厚さ 25cm の耕作土直下で地山の明黄褐色シルト～粘土層となっている。調査区の西側と東側では，地山の下層に堆積する礫層が露頭しており，遺構が希薄となっている。遺構は，掘立柱建物跡 1 棟，溝 2 条，土坑 8 基，ピット 35 基を検出した。

第 2 節　遺構・遺物

(1) 弥生時代～古墳時代の遺構

SB1

調査区中央で検出した掘立柱建物跡である。1 間（2.2 m）四方で，床面積は 4.84 ㎡を測り，主軸方位はほぼ東西を指向する。建物を構成する柱穴 SP1 ～ 4 は円形ないしは隅丸方形を呈し，直径 30cm 程度，深さ 17 ～ 23cm を測る。直径 10cm の柱痕埋土は黒褐色砂混粘質土，掘方は明黄褐色粘土ブロックを含む灰黄褐砂混粘質土である。遺物は出土しておらず，詳細な時期は不明であるが，周辺の調査で検出して



1　2.5Y 3/1　黒褐　砂混粘質土
2　10YR4/2　灰黄褐　砂混粘質土（明黄褐粘土ブロック含む）

0　1m

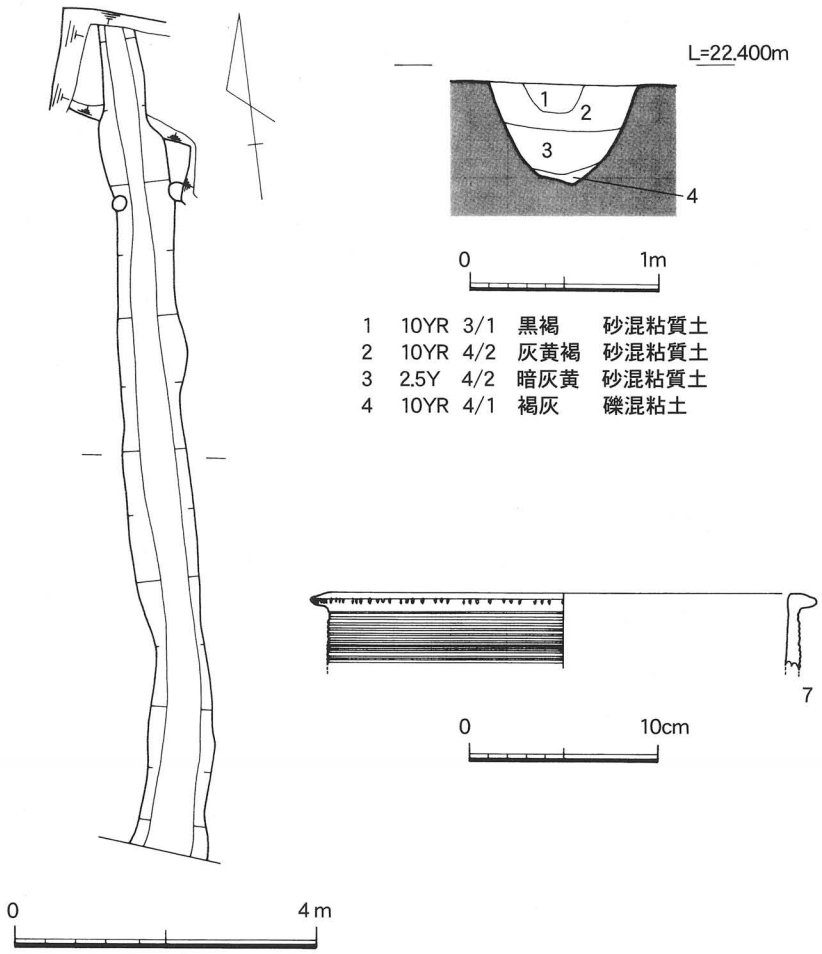
第 6 図　SB1 平・断面図（S=1/40）

いる弥生時代中期の掘立柱建物跡の主軸方位がほぼ東西であることから，同時期の可能性が考えられる。

SD1

調査区の西側で南北方向に流れる溝である。幅90cm，深さ53cm，検出長11.0mを測る。断面形状はU字を呈し，埋土は4層に分層できる。第1層は黒褐色砂混粘質土，第2層は灰黄褐色砂混粘質土，第3層は暗灰黄色砂混粘質土，第4層は褐灰色礫混粘質土である。

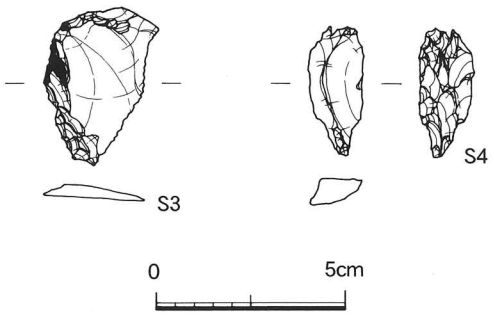
出土遺物のうち図示できたものは，第7図7の弥生土器の甕である。逆L字の口縁部には刻目，体部上半には多重沈線が施されており，弥生時代前期末のものである。他の出土遺物も弥生土器の破片と考えられるが，その出土量は少なく，詳細な時期は不明である。



第7図　SD1平・断面図(S=1/100・1/40)・及び出土遺物実測図(S=1/4)

ピット

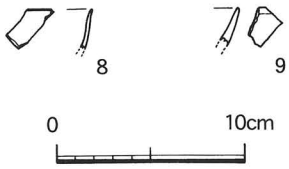
掘立柱建物跡以外にもピットが認められる。このうち，埋土がSB1と同じ灰黄褐色砂混粘質土であるSP5～27は弥生時代のものと考えられる。SP13から弥生土器片，SP15・18からサヌカイト剥片が出土している。第8図S3はSP15出土，S4はSP18出土の剥片である。詳細は第4・6表を参照されたい。



第8図　ピット出土遺物実測図(S=1/2)

(2) 近世以降の遺構

近世以降の遺構としては，土坑8基(SK1～8)，溝1条(SD2)，ピット8基(SP28～35)を検出した。

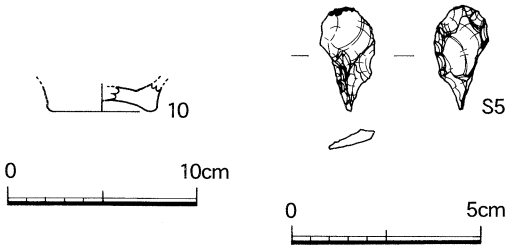


第9図　近世以降の遺構出土遺物実測図(S=1/4)

このうちSK1は北半が調査区外となっているため平面形態は不明であるが，深さ35cmを測り，灰色粘質シルトの埋土中に地山の粘土ブロックが混じっている。周辺部の調査でも同様の遺構が検出されており，粘土採掘坑と考えられる。

その他の遺構については，いずれも浅い堆積で，埋土は灰色粘質シルトの単層である。詳細は第4表を参照されたい。

近世以降の遺構ではSK1・4・6から磁器片が出土している。第9図に掲載した。8はSK1出土の瀬戸美濃系磁器の碗である。口縁部に口紅が施されている。9はSK4出土の肥前系磁器の碗である。口縁部外面に圏線を1条巡らせている。



第10図　機械掘削時出土遺物実測図
（土器：S=1/4，石器：S=1/2）

(3) 機械掘削時出土の遺物

耕作土直下地山であるため，耕作土中から遺物が出土している。表採資料を含めると，出土遺物量の半分を占める。弥生土器や須恵器，土師器，瓦器，陶磁器等多種多様である。図示できたものは，第10図10の弥生土器の底部とS5のサヌカイト製の石錐のみである。

第4章 まとめ

今回の調査では，弥生時代と近世以降の2時期の遺構・遺物を検出した。以下にその変遷を示し，まとめにかえたい。

弥生時代では前期末の遺物が出土した溝SD1が存在するが，周辺の発掘調査では当該期の遺構・遺物は希薄であり，溝の埋没が前期末とは断定できない。また，遺物は出土していないが，弥生時代と考えられる遺構には掘立柱建物跡がある。調査区の北及び西側に位置する日暮・松林遺跡においてこれまで検出されている掘立柱建物跡のうち，弥生中期のものについては規則的に主軸方位を東西方向とすることが指摘されており（中西 1977），今回の調査で検出した掘立柱建物跡も同時期の可能性が高い。このため，日暮・松林遺跡の弥生中期の集落域が当該地まで広がる可能性が考えられる。

一方，近世以降の遺構については，削平が著しいためか，浅い堆積のものが多く，その性格が不明なものが多いが，粘土採掘坑と考えられるSK1を検出した。調査地の東西両端は耕作土直下で礫層となっているが，中央部の明黄褐色シルト～粘土層が存在する部分で，周辺部同様，粘土採掘を行っていることがうかがえた。

なお，これまでの周辺での発掘調査において，調査地周辺に古墳時代の遺物が集中することから，当該地は古墳時代の集落域を想定していたが（大嶋 2005），当該期の遺構は検出されなかった。しかしながら，表採資料には須恵器や土師器，瓦器，輸入青磁等の遺物が出土しており，調査区周辺が古墳時代や中世においても土地利用がなされていたことは否定できない。

参考文献

中西克也 1997『都市計画道路福岡多肥上町線建設に伴う埋蔵文化財調査報告書 日暮・松林遺跡』高松市教育委員会
大嶋和則 2005『特別養護老人ホーム（なでしこ香川）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 日暮・松林遺跡（済生会特養ホーム）』高松市教育委員会

第 11 図　遺構変遷図（S=1/100）

第４表 遺構観察表

遺構名	平面形態	規模（m）			断面形態	埋　土	遺 物	時　期
		長辺	短辺	深さ				
SD1	溝	11.00	0.90	0.53	U字	4層に分層	弥生土器	弥生時代前期末？
SD2	溝	2.35	0.15	0.02	U字	灰色粘質シルト	無	近世以降
SK1	不明	7.10	1.70	0.35	逆台形	灰色粘質シルト	磁器	近世以降
SK2	溝状	1.20	0.50	0.01	レンズ状	灰色粘質シルト	無	近世以降
SK3	正方形	0.80	0.70	0.04	逆台形	灰色粘質シルト	無	近世以降
SK4	長方形	1.10	0.95	0.04	逆台形	灰色粘質シルト	磁器	近世以降
SK5	不整形	0.70	0.50	0.03	レンズ状	灰色粘質シルト	無	近世以降
SK6	長方形	1.25	0.95	0.02	レンズ状	灰色粘質シルト	磁器	近世以降
SK7	長方形	0.95	0.35	0.05	レンズ状	灰色粘質シルト	無	近世以降
SK8	楕円形	1.00	0.50	0.04	レンズ状	灰色粘質シルト	無	近世以降
SP1	楕円形	0.30	0.25	0.23	逆台形	灰黄褐色砂混粘質土	無	弥生時代
SP2	隅丸方形	0.20	0.20	0.17	逆台形	灰黄褐色砂混粘質土	無	弥生時代
SP3	隅丸方形	0.30	0.25	0.19	逆台形	灰黄褐色砂混粘質土	無	弥生時代
SP4	隅丸方形	0.30	0.20	0.18	逆台形	灰黄褐色砂混粘質土	無	弥生時代
SP5	円形	0.45	0.40	0.04	逆台形	灰黄褐色砂混粘質土	無	弥生時代
SP6	楕円形	0.30	0.25	0.05	逆台形	灰黄褐色砂混粘質土	無	弥生時代
SP7	円形	0.20	0.20	0.05	逆台形	灰黄褐色砂混粘質土	無	弥生時代
SP8	円形	0.25	0.20	0.16	逆台形	灰黄褐色砂混粘質土	無	弥生時代
SP9	円形	0.30	0.25	0.21	逆台形	灰黄褐色砂混粘質土	無	弥生時代
SP10	円形	0.20	0.15	0.10	逆台形	灰黄褐色砂混粘質土	無	弥生時代
SP11	円形	0.30	0.25	0.13	逆台形	灰黄褐色砂混粘質土	無	弥生時代
SP12	円形	0.15	0.10	0.02	レンズ状	灰黄褐色砂混粘質土	無	弥生時代
SP13	楕円形	0.45	0.20	0.04	レンズ状	灰黄褐色砂混粘質土	弥生土器	弥生時代
SP14	円形	0.15	0.10	0.12	逆台形	灰黄褐色砂混粘質土	無	弥生時代
SP15	円形	0.25	0.20	0.13	逆台形	灰黄褐色砂混粘質土	サヌカイト	弥生時代
SP16	楕円形	0.25	0.15	0.02	レンズ状	灰黄褐色砂混粘質土	無	弥生時代
SP17	楕円形	0.25	0.20	0.02	レンズ状	灰黄褐色砂混粘質土	無	弥生時代
SP18	円形	0.15	0.15	0.09	逆台形	灰黄褐色砂混粘質土	サヌカイト	弥生時代
SP19	楕円形	0.20	0.15	0.02	レンズ状	灰黄褐色砂混粘質土	無	弥生時代
SP20	円形	0.15	0.10	0.01	レンズ状	灰黄褐色砂混粘質土	無	弥生時代
SP21	楕円形	0.10	0.10	0.02	レンズ状	灰黄褐色砂混粘質土	無	弥生時代
SP22	楕円形	0.25	0.10	0.01	レンズ状	灰黄褐色砂混粘質土	無	弥生時代
SP23	長方形	0.45	0.25	0.01	レンズ状	灰黄褐色砂混粘質土	無	弥生時代
SP24	楕円形	0.15	0.10	0.05	レンズ状	灰黄褐色砂混粘質土	無	弥生時代
SP25	楕円形	0.20	0.10	0.02	レンズ状	灰黄褐色砂混粘質土	無	弥生時代
SP26	楕円形	0.20	0.15	0.04	レンズ状	灰黄褐色砂混粘質土	無	弥生時代
SP27	隅丸方形	0.30	0.20	0.04	レンズ状	灰黄褐色砂混粘質土	無	弥生時代
SP28	楕円形	0.40	0.20	0.06	レンズ状	灰色粘質シルト	無	近世以降
SP29	楕円形	0.15	0.10	0.01	レンズ状	灰色粘質シルト	無	近世以降
SP30	楕円形	0.35	0.25	0.02	レンズ状	灰色粘質シルト	無	近世以降
SP31	楕円形	0.40	0.20	0.02	レンズ状	灰色粘質シルト	無	近世以降
SP32	楕円形	0.30	0.15	0.02	レンズ状	灰色粘質シルト	無	近世以降
SP33	楕円形	0.20	0.15	0.02	レンズ状	灰色粘質シルト	無	近世以降
SP34	隅丸方形	0.50	0.40	0.05	レンズ状	灰色粘質シルト	無	近世以降
SP35	円形	0.40	0.35	0.13	逆台形	灰色粘質シルト	無	近世以降

第5表 土器観察表

番号	器種	出土地	法量（cm）			調整・成形技法等 （上＝外面，下＝内面）	色調（上＝外，下＝内）	胎　土	焼成
			口径	底径	器高				
1	土師質土器 皿	試掘			(1.3)	ナデ ナデ	浅黄橙 浅黄橙	やや密(石英・長石含む)	良好
2	須恵器 坏	表採			(1.5)	回転ナデ 回転ナデ	灰白 灰白	密(石英・長石含む)	良好
3	須恵器 坏	表採			(2.0)	回転ナデ 回転ナデ	灰 灰	密(石英・長石含む)	良好
4	須恵器 坏	表採		4.6	(1.3)	回転ナデ・回転ヘラケズリ 回転ナデ	灰白 灰白	密(石英・長石含む)	良好
5	須恵器 壺	表採			(2.4)	回転ナデ，突帯2条，波状文 回転ナデ	灰 灰	密(石英・長石含む)	良好
6	龍泉窯系 青磁皿	表採	10.8		(1.0)	青磁釉 青磁釉	オリーブ灰 オリーブ灰	精良	良好
7	弥生土器 甕	SD1	24.0		(4.0)	ナデ，刻目，多重沈線 ナデ，ヨコヘラミガキ	橙 橙	密(石英・長石含む)	良好
8	瀬戸磁器 碗	SK1			(2.2)	施釉 施釉，口紅	白 白	精良	良好
9	肥前磁器 碗	SK4			(2.1)	施釉 施釉，圏線	白 白	精良	良好
10	弥生土器 底部	耕作土		5.3	(1.5)	マメツ マメツ	明褐 明褐	密(石英・長石含む)	良

第6表 石器観察表

番号	器種	遺構	法量（cm，g）				石材	特　　徴
			長	幅	厚	重		
S1	石鏃	表採	1.6	1.7	0.2	0.7	サヌカイト	凹基式。
S2	石鏃	表採	2.0	1.9	0.4	1.2	サヌカイト	凹基式。両面より細かく調整。
S3	剥片	SP15	4.2	3.1	0.4	3.5	サヌカイト	片面は細かい調整有。
S4	剥片	SP18	3.5	1.5	0.7	2.3	サヌカイト	片面は細かい調整有。
S5	石錐	耕作土	2.8	1.5	0.4	0.8	サヌカイト	頭部は丸い。錐部と頭部で調整面が異なる。

写真図版

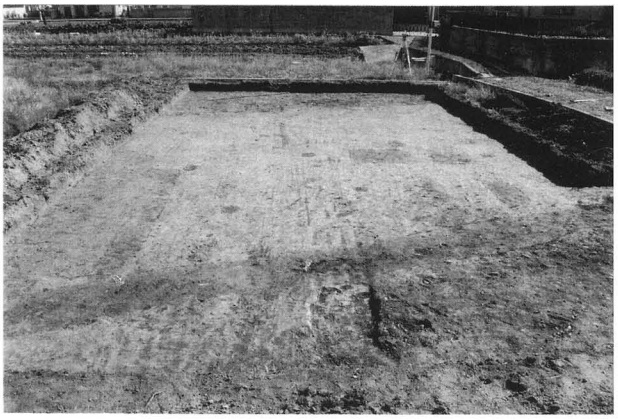


写真１　遺構検出状況（西から）

写真２ SD1 検出状況（南から）

写真３ SD1 完掘状況（南から）

写真４ SD1 断面（南から）

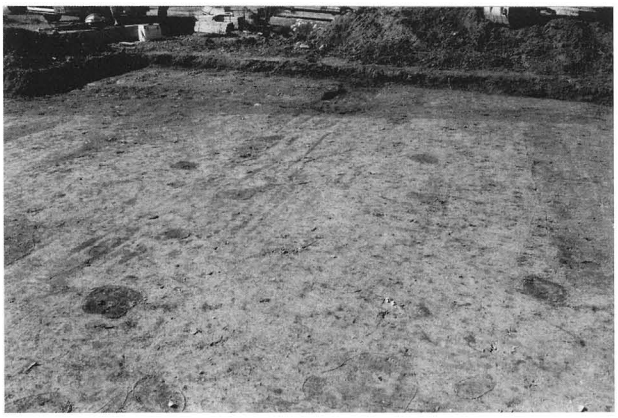


写真５ SB1 検出状況（東から）

写真６ SB1 完掘状況（西から）

写真７ 完掘状況（西から）

写真８ 作業風景

報 告 書 抄 録

ふりがな	たひみやじりいせき（いりょうひんはんばいてんぽ）
書名	多肥宮尻遺跡（衣料品販売店舗）
副書名	衣料品販売店舗建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	第1冊
シリーズ名	高松市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第90集
編著者名	大嶋 和則
編集機関	高松市教育委員会
所在地	〒760－8571　香川県高松市番町一丁目8番15号　　TEL087－839－2636
発行年月日	2006年1月31日

ふりがな 所収遺跡名	しょざいち 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
たひみやじりいせき 多肥宮尻遺跡	かがわけん 香川県 たかまつし 高松市 たひかみまち 多肥上町	37201		34° 17′ 36″	134° 03′ 26″	2005.11.21 ～ 2005.11.25	120 ㎡	衣料品販売店舗建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
多肥宮尻遺跡	集落	弥生	掘立柱建物跡 溝 ピット	弥生土器，石器	
		古墳		須恵器	
		中世		土師器，瓦器，青磁	
		近世	溝 土坑 ピット	陶磁器	

要約	多肥宮尻遺跡は高松平野の中央部に所在する弥生時代～古墳時代の集落遺跡である。今回の調査では，弥生時代と近世以降の遺構・遺物を検出した。弥生時代では，中期と考えられる掘立柱建物跡を検出した。これにより，調査地の北西部で検出されている弥生時代中期の集落域が当該地まで広がりを持つことがうかがえた。なお，これまでの発掘調査成果から古墳時代の集落域が想定されていたが，当該期の遺物は出土するものの，遺構は検出されなかった。

衣料品販売店舗建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

多肥宮尻遺跡（衣料品販売店舗）

平成18年1月31日

編　集　高松市教育委員会
　　高松市番町一丁目8番15号
発　行　高松市教育委員会
　　株式会社しまむら
印　刷　有限会社中央ファイリング